

from **NOW ON** KANSAI

ひとを見つける、ひととつながる
関西広域連合のビジネス情報紙



「脱プラのその先」を目指す企業 次世代に向けたビジネスのあり方とは？

～株式会社ワカクサ



◀株式会社ワカクサ代表取締役社長の安本昌広氏

「脱プラのその先」を目指す企業 次世代に向けたビジネスのあり方とは？

大学や行政との積極的な連携が 新しいビジネスを生み出した

多くの企業が持続可能なビジネスを模索するなか、大学や行政の支援機関との積極的な連携を新しいビジネスへと繋げたのが株式会社ワカクサだ。同社では、バイオマスプラスチックやリサイクルプラスチックの開発を進めるにあたり、同志社大学や京都大学をはじめとする大学や、京都市産業技術研究所、奈良県産業振興総合センターといった行政の支援機関に協力を仰ぎ、連携を図ってきた。大学や行政の支援



▲物流用パレットの仕上げ工程。一台ずつ丁寧に処理される

●プロフィール

株式会社ワカクサ

1973年創業。プラスチック金型及び製品の企画・設計・製作・配送までをワンストップで提供。ウッドプラスチック(WPC)、複合繊維プラスチック、再生材料(オリジナル複合)などの開発に積極的に取り組む。

(本社)〒639-2154 奈良県葛城市兵家227

<https://wakakusa-ltd.co.jp/index.php>

機関は大手の企業と繋がりを持っており、「こういう興味深い取り組みをしている会社がある」と紹介されることで、今まで繋がりなかった企業との貴重なビジネスチャンスを得るきっかけになった。

危機的状況で舵を切る中 事業の抱える問題を認識

プラスチック産業は、奈良県の地場産業のひとつに数えられている。奈良はもともと大阪へ向けての雑貨の産地として成立していたことに加え、木材や鉄の代替品としてプラスチックが注目され始めた時期に、次々にプラスチック産業に参入。家電や雑貨メーカーの本社がある大阪に近い立地特性を活かし、奈良市の南部を中心に多くの企業が誕生した。プラス



▲家庭から出されたプラごみが再生利用されている



▲リサイクル素材がバージンプラスチックと混合される



▲採用が好転したと語る総務部部長の安本将紀氏

チック製品の大量生産の波に乗り、30～40年前には南部エリアだけでも300社以上が稼働していたそうだ。

しかし時代の推移とともに、発注元企業の事業縮小や海外生産、後継者不足という荒波を受け、危機的な状態に陥る企業が増えてくる。大手家電のプラスチックパーツの供給をメインにしていた株式会社ワカサもそのひとつだった。ピンチを乗り越えるべく、同社では自動車や工業資材などに事業フィールドを拡大し、OEM生産でパーツを提供するようになった。しかし、その一方で「自分たちのプラスチック製品は作れば作るほど社会悪になっているのではないか」という声が社内から上がってきたという。当時は今ほどマイクロプラスチックの問題がクローズアップされてはいなかった。しかし、全社を挙げて経営理念やビジョンを考えていく中で、こうした問題が提起され、「自分たちに何ができるだろうと考えたのが、リサイクルプラスチックの始まりでした」と、同社代表取締役社長の安本昌広氏(以下「安本社長」)は言う。

廃棄される植物などをプラスチックに加える

同社では現在、製品の25%程度にバイオプラスチック、リサイクルプラスチックが使われており、その割合は年々増加している。物流用のパレットなどさまざまな製品が同社の環境に配慮したプラスチックで作られ、バイオマスの材料を使った産業資材などに関する引き合いも、各業界から寄せられているという。とはいえ、製品化は決して容易な道のりではない。環



▲二人がかりで製品を仕上げていく

境に対する負荷の軽減と機能、コストのバランスを取ることが難しいからだ。

バイオプラスチックには、微生物の働きによって最終的に二酸化炭素と水に分解される生分解性プラスチックと、植物などの生物資源から作られる生物由来のバイオマスプラスチックがあり、同社では主に後者が採用され、パーム油を取った後のヤシ殻などが活用されている。しかし、「コストの面でまだ多くの課題が残されている」と安本社長は言う。バイオマスプラスチックの場合、特に生物資源の添加割合が重要なポイントとなる。素材の特性上一般的なプラスチックより低温で成形する必要があり、添加割合が高すぎると、製品のスムーズな製造に支障をきたすおそれがある。その結果、通常よりも加工工程が複雑になり、必然的にコストが高くなってしまう。

「みなさん、本当にいいねと言っていますが、費用を考えると製品化は難しいのが現状です。その点では、ヨーロッパの企業のほうが環境負荷を軽減した製品化に積極的です(安本社長)」

大手企業とのコラボにより リサイクルプロジェクトにも着手

従来は廃棄されていた植物素材を活用したバイオマスプラスチックの製品化に加え、同社では、一般家庭から廃棄されるプラスチックごみの再製品化も進行している。自治体が回収したプラごみを、いったんペレットと呼ばれる粒状の原料に戻し、さまざまな製品の素材としてリサイクルさせているのだ。さらに、新しい取り組みとして紙おむつなど衛生製品を扱う大手メーカーとの連携もスタート。廃棄される紙おむつを、プラスチックと紙に分別し、プラの部分を引き取ってペレットに戻して、リサイクルプラスチックの素材として再活用している。この他にも、紙の代替資材を開発する企業とのコラボや電線の被膜を素材として再利用する試みも始動している。同社では今後もバイオマスプラスチックの活用を着実に進めていく方針だが、さらに、ゴミを資源として再利用し、付加価値を生み出すリサイクルプラスチックの新たな展開にも注力していくという。

同社の製品の中でのバイオマスプラスチックとリサイクルプラスチックの比率を、5割にまで高めるのが目標だ。

企業のポリシーに共感した 若手からの求職者増の手ごたえ

同社では、昨年より「脱プラのその先へ」をスローガンに掲げている。現在、マイクロプラスチックによる海洋汚染の影響などもあり、プラスチックが社会悪のように捉えられがちな状況にある。しかし、社会から必要とされているからこそ、今なお存在し続けているのであり、私たち人間と共に歩んでいける部分がまだまだたくさんあるのではないかと、という思いと希望がこめられたスローガンだ。「廃棄物をゴミと考えるか、資源と考えるかで、その先が大きく変わってくると思います」と安本社長は力説する。

同社のこうしたポリシーや姿勢は、また採用にも好影響を与えている。給与や待遇といった即物的な部分だけでなく、社会貢献や自身のやりがいにも重きを置く現代の若い人の仕事観に、同社のポリシーがマッチし、求職者からのアプローチが好調に増えているのだ。以前までは募集をかけても、反応がなかったが、現在では若い人の応募もあり、採用に繋がっているという。安本社長は、ものづくりを通して、それに関わる人が幸せになるという考え方を積極的にアピールしたことで、若い人の共感を得られたのではないかと分析する。企業説明会やオープンファクトリーを開催し、地元ハローワークの担当者に同社のポリシーを丁寧に説明し、工場見学に招くなど、情報発信にも積極的だ。今後は新たな設備拡充を図り、工場の増設も予定している。

積極的な情報発信を通して 「脱プラのその先」を目指す

情報発信の一環として、同社では東京ビッグサイトで開催された『2025NEW環境展』に出展し、大阪南港のATCでも、



▲プラスチックの可能性について熱く語る安本社長

実際にリサイクルプラスチックに触れられる展示を実施している。「海外の方やお子さんも多いので、ちょっとのぞいてもらえれば」と、展示をビジネスに繋げるというよりも、自分たちの姿勢を発信するための取り組みだ。

さらに、大阪・関西万博では、ヘルスケアパビリオンの『リボンチャレンジ』に、同社が開発したバイオマスプラスチックを使った物流用のパレットが紹介される(8/19～25)。物流用パレットは、全世界の物流業界はもちろん、さまざまな業種の工場などでも広く使われている。強度や耐久性が求められるアイテムの素材として、バイオマスプラスチックがその機能を担保できることを広く伝えることを狙う。

「これまで捨てられていたものを活用してより良いものを生み出していく挑戦に共感し、一緒に挑戦してくれる企業をどんどん増やしていきたいですね。世界的にこうした動きが広がれば、プラスチックを取り巻く環境が変化して、脱プラのその先へと歩みを進められるのではないかと期待しています(安本社長)」

<https://www.k-labsearch.jp/concierge/>

関西広域産業共創プラットフォーム



関西広域連合 広域産業振興局NEWS

メルマガ会員募集中！

ぜひ、ご登録ください(登録無料)

kansaisangyotouroku@qt15.asp.cuenote.jp



広域産業振興局では関西の成長の方向性を示した
「関西広域産業ビジョン」を策定しています！

「アクションプラン」「関西ポテンシャルマップ」「構成
府県市リーディングケース」もぜひご活用ください。



関西広域連合 広域産業振興局 公式Instagram

イベント情報発信中です。

フォロー・いいねをお願いします！

@kouiki_sangyo



発行元／関西広域連合 広域産業振興局
〒559-8555 大阪市住之江区南港北 1-14-16

大阪府商工労働部 商工労働総務課内
TEL06-6614-0950 FAX06-6210-9481
E-mail sangyo@kouiki-kansai.jp

URL <http://www.kouiki-kansai.jp/koikirengo/jisijimu/sanshin/index.html>

さあ、関西の時代へ



関西広域連合
UNION OF KANSAI GOVERNMENTS